

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
心理療法Ⅱ		選択	2	2・3	通年
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小林 真理子 他	講師控室	kyoumu	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	<p><目的>心理療法を行うために必要とされる様々な理論や技法の実際について学び、臨床において必要とされる技術を身につけることを目的とする。</p> <p><概要>毎回少人数のグループに分かれ、主に活動を通して、登校による実際の集団心理療法を体験しながら、各種心理療法の技法を習得していく。オリエンテーション及び振り返りをTeamsによる遠隔授業で行う。</p>				
学習上の助言	<p>今年度は既にオリエンテーションと心理療法の概要と効果を2回、自宅学習の形式で行っている。残り13回をTeamsによる遠隔授業及び集中講義形式で実施する。活動を用いて集団心理療法の体験を2日間(10回)行う。体験前のオリエンテーションを1回Teamsによる遠隔授業で行い、体験後の2回を振り返りとしてTeamsによる遠隔授業で行う。</p>				
教科書	<p>基礎から学ぶ心理療法/矢澤美香子編/ナカニシヤ出版 (心理療法で使用)</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>				
参考書	<p>よくわかる臨床心理学/下山晴彦編/ミネルヴァ書房</p> <p>やさしく学べる心理療法の基礎/窪内節子・吉武光世共著/培風館 等授業の中で紹介する。</p>				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理療法についての理論や技法について述べるができる。			心(1)、(2)	
②	心理療法の基本的姿勢について学ぶことができる。			心(1)、(2)	
③	心理療法の基本的な技術を身につける。			心(2)	
④	心理療法の技法を用いて、準備された場面で適切に使うことができる。			心(2)	
⑤	架空事例や活動を用いて、心理療法の技法の用い方を実際に体験することができる。			心(2)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーション、心理療法の実践活動について学習する。	印刷教材等での授業	教科書を精読し提示した資料をもとにレポートを作成する。	4	
2	心理療法とはなにか 面接技術と心理療法の効果について学ぶ。	印刷教材等での授業	配布プリントを精読し提示した資料をもとにレポートを作成する。	4	
3	これから行われる2日間の集団心理療法体験についてオリエンテーションを行う。	同時双方向型授業	心理療法の概要について、教科書を読む。心理療法を履修した者は、その資料についても読み、ノート等にまとめておく。	4	
4・5	集団心理療法体験を通して、自己紹介とラポール形成について学習する。	GW (対面)	心理療法におけるラポール形成、言語・非言語コミュニケーションのあり方を教科書などを読み、ノート等に整理しておく。心身ともに疲労する体験となるため、リラックスできる時間を確保する。余裕があれば、本日の体験をノート等にまとめる、あるいは、知的に整理しようと思わずに、体験を振り返りながら味わうようにする。	22	
6・7・8	集団心理療法体験を通して、バーバル・ノンバーバルコミュニケーションの違いとそのコミュニケーションを用いてセラピーに援用する方法を学習する。	GW (対面)			
9・10	集団心理療法体験を通して、近接知覚感覚や遠知覚などさまざまな感覚を用いて、相手を知ること学習する。	GW (対面)	集中講義であり、敢えて予習は必要としない(2日目の活動体験に備えて、心身とも十分休養をとることが重要である)。2日間を通しての体験を振り返り、ノート等にまとめておく。	22	
11・12・13	集団心理療法体験を通して、さまざまな感覚を用いて、相手を知り、自分を知ること学習する。また自分の得意・不得意の表現方法を知り、心理療法など対人援助技術を学習する。	GW (対面)			
14・15	2日間の集団心理療法体験の振り返りを行い、2日間の体験を知的理解としても統合し、心理療法など対人援助技術を知的・情緒的に学習する。	同時双方向型授業	2日間の体験の振り返りノートを見ながら、活動体験の自己分析を行う。振り返りを通して、更に活動体験の知的理解を深める。	4	
試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	40	40	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	5	0	0	15
	思考・推論・創造する力	0	20	5	0	5	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	5	15
	コミュニケーション力	0	0	5	0	5	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	5	0	5	10
	問題を発見・解決する力	0	10	5	0	0	15
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	集団心理療法体験を通しての振り返り作業をレポート形式で報告してもらう。				コメントを付したレポートの Teams 上での返却
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
成果発表	①	✓	集中講義は活動体験が主となるため、協調性・リーダーシップ、意欲的姿勢など成果発表に至る経過を重視して評価する。				授業内でのフィードバック
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	授業態度や活動体験時のリーダーシップや協調性を発揮することができる。				授業内でのフィードバック
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
<p>*Teams を使った同時双方向型授業及び登校授業を行います。同時双方向型授業では、通信容量が無制限の Wi-fi 環境を推奨します。登校授業に関しては大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがあります。その場合、授業は欠席として扱います。</p> <p>*今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更もあります。</p> <p>担当教員：◎小林 真理子、中嶋 彩 心理療法とともに履修することが望ましい。(心理療法において理論編を行った上で、心理療法Ⅱはその内容に基づいて行う授業となるため) 特に、心理療法Ⅱのみを受講すると理論的なことが学べず、理論と実践場面での一貫した学びが難しくなることに留意してほしい。</p> <p>教員の実務経験：小林は、民間精神科病院の心理職、山梨県職員（児童相談所、精神保健福祉センター、障害者相談所等）の心理職、厚生労働省発達障害対策専門官など。 中嶋は、民間精神科病院・研究機関での心理職、山梨県の相談機関（こころの発達総合支援センター、精神保健福祉センター、児童相談所等）などのスーパーバイザーやアドバイザー、障害者通所施設の施設長。</p> <p>実践的授業の内容：さまざまな相談・支援機関や医療機関における事例を理論学習のなかに取り入れ、生き生きとした授業内容にしていく。また、実際の実務の中で有効だと思われるロールプレイや心理ゲームなどを取り入れて、実践に役立つ授業内容を目指す。</p>							